



# ICT 海外ボランティア会会報

## No. 56

2015年3月23日(月)

Home page : <http://www.ictov.jp/>

e-mail : [info@ictov.jp](mailto:info@ictov.jp)

### 目次

◆ 特別寄稿

作業命令じゃ宿題は落第、分権は甘いどころかきついよ

ICT海外ボランティア会顧問 石井 孝氏

◆ JICA 春募集

シニア海外ボランティア 2015 年度春募集

事務局

◆ 海外グラフィティ

かなりいい話 - 「The World End」 - の奇跡

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆ 海外 IT 事情

インドの携帯電話市場：まだまだ成長の余地が高いスマートフォンと

コミュニケーションの中心となったメッセンジャーアプリ (その1)

情報通信総合研究所 副主任研究員 佐藤 仁氏

◆ 中東紀行

バビロンへの道

技術士 杉浦 右蔵氏

◆ 第 14 回 海外情報談話会 開催模様

事務局

◆ 第 15 回 海外情報懇談会 開催のお知らせ

事務局

## 特別寄稿

### 作業命令じゃ宿題は落第、分権は甘いどころかきついよ

ICT 海外ボランティア会顧問 石井 孝

#### 【真藤 恒氏語録】

自分の仕事に対して勇気が足りないと、熟慮不断行になる。しかし、この場合の熟慮というのは、実際には熟慮というよりも、右顧左眄でしかない。

分権化していくときの宿題の出し方のニュアンスが大事である。なんとと言っても、しょっぱなの宿題を出すときのニュアンスが、作業命令のような宿題の出し方になれば、ただ単に宿題を忠実に実行していればいいんだ、というような態度になる。

本当の分権化とはほど遠い姿になってしまう恐れがあって、危険性も出てくる。そうではなくて、俺にはできないから頼むよという態度の宿題の出し方なら、そうはならないと思う。それでもそうなるというなら、それは権限を委譲される資格のない人だ。

だから、頼む立場で分権化していくということが、いわゆる宿題の出し方のベースにないといけない。そういう能力にない者を管理者にしているなら、管理者にしたのが悪いんだから、変えなければ仕方ない。

分権化というのは、言葉では非常に甘く聞こえるけれども、実際の運用では、託するに足りない管理者というものは、どんどん首をすげ替えられますということである。だから管理者は実際には非常にきつくなる。

#### 【石井 孝氏のひと言】

これが真藤さんの優しさと厳しさである。部下を慮って宿題を頼みこむが、それに対し顔色を見たりして逡巡していると、何だこの男は、ということになる。また、部下が彼の部下に、偉そうな態度で臨んでいることが分ると、何ということだ、ということになる。要するに、実力と配慮を欠く管理者は、お眼鏡に合わない。

このような新総裁の下では、学歴やおべんちゃらは通用しない。待ってましたという人も大勢だが、安眠を貪っていた者にはキツイ話になる。この連中も黙ってはいない。モゾモゾ始める。社風の改革は並大抵で出来るものではない。

## JICA春募集

JICA シニア海外ボランティア 2015 年度春募集

事務局

シニア海外ボランティア 2015 年度春募集は 4 月 1 日（水）より 5 月 11 日（月）まで行なわれます。

「JICA シニア海外ボランティア春募集要請一覧」より、当会会員が応募し易い要請案件を抜粋しました。これを参考にいただき、積極的に応募されますことをお奨めいたします。最近、「電気通信・情報通信に関する応募者が減少の傾向にある」（JICA 担当者）とのことです。職種の範囲を拡げて、奮ってチャレンジしてください。

要請案件の詳細については JICA のホームページをご覧ください

また全国各地で開催される JICA 主催の「募集説明会」にも参加をお奨めします。（開催の詳細も JICA のホームページをご覧ください）。説明会では関係資料が入手でき、個別相談のコーナーも開設されます。

またこれに呼応して、「SV 経験を活かす会」主催の「よろず相談会」も開催されています。同会のホームページに開催の詳細が掲載されています。併せてご活用ください。

当会会員が応募し易い要請案件の概要を次表に示します。

区分、職種	国・配属先	要 請 内 容
計画・行政 コンピュータ技術	ミャンマー 情報通信技術研修センター	ネットワーク分野の研修内容改善、新設コース開設サポート、 講師・研修生への実践的指導
同 上	モロッコ デジタル教材研修所	教育関係者に対し、ニーズに適したデジタル教材に関わる技術指導
公共公益事業 電気通信	マレーシア 産業訓練校	携帯電話のインフラ整備などについて、実習計画作成・シラバス改定、 インストラクターへ技術指導
同 上	ザンビア ザンビア大学	電気・電子工学科学生に対し無線通信技術の講義・実習 修士課程の学生に対し個別指導、同僚講師への提案・助言
鉱工業 電気電子機器	パラグアイ 職業能力開発局支局	短大コースに新設される制御科の実習場整備・教材作成・PLC 制 御・空気圧縮機にかかわる技術指導
同 上	ペルー 全国工業労働 訓練機関(カラ)	産業用プロセス制御に関する人材育成のため、講師の質の向上や カリキュラム改善に協力
同 上	ペルー 全国工業労働 訓練機関(チカラ)	産業用プロセス制御に関する人材育成のため、講師の質の向上や カリキュラム改善に協力
同 上	ペルー 全国工業労働 訓練機関(ピウ)	PLC・プロセス制御等自動制御分野の教師の知識・技術向上、 教育法改善に協力
同 上	セネガル ダガール工科大学	太陽光発電など再生エネルギー分野の研究、特にコンバーターを中心と したパワーエレクトロニクス分野の研究や実習指導
商業・観光 経営管理	ベトナム 品質評価・測定・認定機 関	競争力強化・生産性強化のコンサルを行う機関に対し、実践的知識・ ノウハウの提供。Six sigma, Lean reduction 手法を用いたコンサル能 力向上支援
同 上	アルゼンチン 工業技術院	企業経営に関するマーケティング・コスト管理・品質管理・生産管理に ついて技術指導、及び指導者育成支援
同 上	コロンビア 自治大学	人員配置・会議運営法・委員会再構成・手続き書類の簡素化・ 横断的事項の一元化・情報管理保管等の改善
商業・観光 品質管理	タイ チェンマイ大学工学部	日本企業が取り組んでいる低付加環境の生産に関する経験の 紹介

区分、職種	国・配属先	要 請 内 容
商業・観光 品質管理	ベトナム 北部中小企業支援センター	市計画投資局とも協働し、3s・5s を切り口に品質改善・生産性向上支援、セミナー開催協力、センターの企画・運営向上支援
同 上	インド 製造業会議所	日本特有の現場主義・改善手法を用いて、地元中小企業の実産性向上・品質向上に協力
同 上	パラグアイ 生産性品質向上センター	中小企業に対し生産性向上・品質管理コンサルティング実践力の涵養、国内企業へ品質管理知識の普及
同 上	トルコ 科学生産技術省	民間製造業向けの生産性向上プロジェクト支援のため、日本型TQC 導入・品質管理・生産性向上の普及

## 海外グラフィティ

### かなりいい話 — 「The World End」 — の奇跡

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



先月（2月）にテレビでも放映されたが、ある奇跡がスリランカで起こった。場所は島の南部丘陵地帯—ワールドエンド—である。文字通り「地の果て」で、1,200メートルの崖である。自分も滞在中に2度訪れた。切り立った崖で、柵などはない。だから、高所恐怖症でもあり、きわめてゆっくり崖沿いの道を歩いた。いずれも深い霧に覆われ、奈落の底は見えない。

テレビ放映の中身だが、新婚旅行中のオランダ人のカップルの話で、婿さんが頂上付近で嫁さんの写真を撮ろうと後ろに下がった瞬間、足を滑らせて崖から転落してしまった。万事休すだ！ところがである、誠に幸運なことに40メートル落下したところで、木の枝にひっかかり、下まで落ちなかったのだ。なんとという幸運だろうか！それからの救出作業が大変だった。40人のスリランカ兵とヘリコプターまで動員した。男性は担がれようやく病院についたという。警察の広報官曰く「彼は、非常にラッキーです。この『ワールド・エンド』から落下し、生き延びた最初の人間です」。

「The World End」は上野にもある。但しこちらは崖ではなく、アイリッシュパブだ。非常に奇妙な名前なので、店のウェイトレスにいわれを聞いたら「世の終わりになっても、この店だけは残る」という何とも威勢のいい話だ。なんでも、ロンドンの原宿と言われる「カムデン・タウン」に同じ名前のバーがあり、ウェイトレスも一度訪れたことがあるという。店のイチオシはなんといっても、ギネスだ。ギネスは一銘柄で、スタウトというのがアイリッシュビールの一般的な飲み物としての呼称である。

アイルランドを訪れたとき、やはり、スタウトだろうというわけで、ダブリンの「グreshamホテル」のバーでこれを飲んだ。アイルランド人作家ジョイスの「ダブリン市民」にも出てくる老舗のグreshamホテルだが、あいにく満室で、宿泊はままならなかったが、しばしスタウトで旅のひと時を楽しめた。スタウトの楽しみ方は、是非1ポイント（0.570）を一気にやってほしい。中ジョッキのサイズだが、その独特の苦みが何ともうまいのである。東京に数多くあるアイリッシュパブで是非試してはいかがかな？

## 海外 IT 事情

### インドの携帯電話市場：まだまだ成長の余地が高いスマートフォンとコミュニケーションの中心となったメッセンジャーアプリ（その1）

情報通信総合研究所 副主任研究員 佐藤 仁

インドの携帯電話加入者数は、2014年6月時点で9億を超えている。しかしインドでは加入者数の90%以上がプリペイドであることから、1人で複数枚のSIMカードを購入することも可能である。つまり携帯電話加入者数が9億を超えているからといって、9億人が携帯電話を所有しているというわけではない。携帯電話事業者間での競争も非常に激しい。

#### インドの主要キャリアの加入者数、プリペイド比率、ARPU

キャリア名	加入者数	プリペイド比率	ARPU
Airtel	約1億8,830万	95.8%	3.7ドル
Vodafone	約1億5,270万	94%	3.6ドル
Reliance	約1億2,320万	97%	2.4ドル
Idea	約1億2,150万	96.1%	3.2ドル

(公開情報を元に作成)

本稿ではインド市場におけるスマートフォンとメッセンジャーアプリの観点から見ていきたい。

#### ■インドの携帯電話出荷のうちスマートフォンはまだ30%

IDCインドは2014年11月26日、2014年第3四半期(7月～9月)のインドにおける携帯電話出荷台数を発表した。それによると、同時期にインドで販売された携帯電話全体で7,250万台だった。そのうちスマートフォンは2,330万台、フィーチャーフォンが4,920万台である。インドではスマートフォンの成長も著しいが、携帯電話出荷のうちまだ約70%がフィーチャーフォンである。

#### インドでの携帯電話出荷のうちスマートフォン、フィーチャーフォンの比率

販売シェア	フィーチャーフォン	スマートフォン
2013年Q3	81%	19%
2013年Q4	78%	22%
2014年Q1	72%	28%
2014年Q2	71%	29%
2014年Q3	68%	32%

(出典：IDCインドを元に作成)

現在、インドにおいて販売されている携帯電話端末のうち70%がフィーチャーフォンなのは、端末価格が安いからである。スマートフォンの低価格化が進むことによってますますスマートフォンの割合は拡大していくことであろう。

特にインドではMicromax、Lava、Karbonnといったインドの地場メーカーの台頭が著しい。特にローエンド端末の多くは地場メーカーから提供されている。Karbonnが出荷しているスマートフォンのうち85%以上は100ドル以下の端末である。100ドル以下のスマートフォンもインド市場では数多く投入されている。

2014年9月にはGoogleが新興国向けのOS「Android One」を発表し、インドで3端末が106ドルで販売開始された。また「Firefox OS」を搭載したスマートフォンは30ドル台で販売されている。

人口13億人のインド市場には、インドの地場メーカーだけでなく、インド進出を目指して中国やアジアのメーカーも進出を計画していたり、既に進出している。今後もインド市場においてはさらに激しい価格競争が展開されることが予想される。

### 2014年第3四半期のインドにおける携帯電話出荷台数の比率

	2014年第3四半期 出荷台数	四半期比	前年同期比
スマートフォン	2,330万台	27%	82%
フィーチャーフォン	4,920万台	10%	▲9%
合計	7,250万台	15%	9%

(出典：IDC  
インドを元に作成)

メーカー別に見ていくと以下の通りである。

### 2014年第3四半期のインドにおける 出荷メーカー別シェア

	メーカー	シェア
1	サムスン	24%
2	Micromax	20%
3	Lava	8%
4	Karbonn	8%
5	モトローラ	5%
6	その他	38%
	合計	100%

(出典：IDCインドを元に作成)

### 2014年第3四半期のインドにおける携 帯電話(スマートフォン+フィーチャー フォン) 出荷メーカー別シェア

	メーカー	シェア
1	サムスン	16%
2	Micromax	14%
3	ノキア	11%
4	Lava	10%
5	Karbonn	8%
6	その他	41%
	合計	100%

(出典：IDCインドを元に作成)



(公衆電話がまだある。  
このキオスクでもSIMを扱っている)



(Vodafone の看板だが、  
それ以外のSIMも扱っている)

## ■ Google も狙っているインドのスマートフォン市場

2014年9月15日、Googleがインドで「Android One」スマートフォンを6,399ルピー（105ドル）で販売することを発表した。インドの地場メーカーMicromax、Karbonn、Spiceから販売されている。また、インド最大手の通信事業者Airtelと提携して、利用者はAirtelのSIMを購入し「Android One」を利用すると、ソフトウェアアップデート利用限定のポケット使用料6ヵ月間無料、特定のGoogle Play上のアプリのダウンロードのポケット無料（月200MBまで）がついている。

フィーチャーフォンではGoogleにとってはほとんどビジネス（収益）にならない。GoogleはAndroidをスマートフォンのOSとして無償でメーカーに提供して、Android端末を普及させることで、そのスマートフォンを利用している利用者がGoogle検索、YouTubeでの動画閲覧などGoogleのサービスを利用してもらうことによって、そこから得られる情報を元に広告を配信していくビジネスモデルである。Googleにとって新興国のユーザー基盤は重要な収入源である。

Googleは今までも新興国市場向けにはGmailやGoogle検索が無料で、リンク先から有料になるサービス「Free Zone」や、ネットワーク普及率が低い地域において安価に構築する手段として気球を活用する「Project Loon」などに取り組んできた。

一方で、インドのIntex Technologiesは2014年9月、「Firefox OS」を搭載したスマートフォン「Cloud Fx」を1,999ルピー（約33ドル）で販売開始することを発表した。1996年に設立されたIntex Technologiesは、携帯電話の他にデジタル家電などの開発も行っている。中国とインドにR&Dセンターがあり、テレビショッピングやネットショッピングでも商品を販売している。

Intex Technologiesでは今回販売開始した「Firefox OS」のスマートフォン以外にも、15,000ルピー（約255ドル）以下のミドルエンド端末から、5,000ルピー（約85ドル）くらいのローエンドのスマートフォン端末を多数販売している。今回の1,999ルピー（約33ドル）はインド市場全体を見ても、かなり低価格なスマートフォンである。もちろんフィーチャーフォンも販売している。フィーチャーフォンの価格帯は970ルピー（約17ドル）から2,500ルピー（約42ドル）で、インドの庶民にとっても非常に購入しやすい価格帯で多数のプロダクトを揃えている。

また、2014年8月29日からはインドのSpice Mobilityは「Firefox OS」搭載のスマートフォン「Spice Fire One Mi-FX 1」を2,299ルピー（約38ドル）で販売開始している。インドのスマートフォン市場ではメーカーによる低価格端末競争が始まっている。

インドでは携帯電話の出荷に占める70%がまだフィーチャーフォンである。それはフィーチャーフォンの方が遥かに安いからである。インドではスマートフォンは中古でも安くて80ドルくらいからだが、フィーチャーフォンは新品でも15ドルくらいからある。さらにフィーチャーフォンは中古品も大量に流通している。

今回、Intex Technologiesが33ドルでスマートフォンを市場に投入してきた。新品で33ドルのスマートフォンはインドでもかなり安いプロダクトである。「Firefox OS」を提供するMozillaは2014年2月に25ドルのスマートフォンを実現することを明らかにしている。そのような市場ではGoogleの「Android One」も105ドルだから、高価なスマートフォンになりかねない。

これからもスマートフォンはますます低廉化していくだろう。それによって、インドや途上国での携帯電話に占めるスマートフォンの比率は急激に拡大していく。結局のところ、フィーチャーフォンの方がスマートフォンよりも売れているのは、端末の価格である。かつて安いスマートフォンは電池の持ちが悪いなど機能での見劣りしていたが、最近ではだいぶ改善されてきた。

インドにはMicromax、Lava、Karbonnなど多数の地場メーカーが存在しており、大都市だけでなく地方でも販売しており、知名度も高い。彼らもすぐにIntex Technologiesにキャッチアップして廉価なスマートフォンを大量に市場に投入してくるだろう。今までフィーチャーフォンしか購入できなかった層がスマートフォンを所有することによって、新たなアプリやサービスを利用する機会も増加し、新たな世界に触れることになる。端末の低廉化はインドをはじめとした途上国の人々の生活を大きく変える可能性を持っている。

### （参考）インドの平均基本給月額

農業従事者はさらに安いですが、彼らの多くも携帯電話を所有している。

	製造業・マネージャー	非製造業・スタッフ	非製造業・マネージャー	製造業・作業員	製造業・エンジニア
平均基本給月額	1,034 ドル	520 ドル	1,274 ドル	188 ドル	450 ドル

（JETRO 発表資料を元に作成）



「Android One」を搭載したインドの地場  
メーカーMicromax、Karbonn、Spice の端末

(出典 : Google)



「Firefox OS」を搭載したスマートフォン「Spice  
Fire One Mi-FX 1」1,999 ルピー (約33 ドル)

(出典 : Snapdeal)



## 中東紀行

### バビロンへの道

技術士 杉浦 右蔵

本文は、世界の航空発着便利時刻表 Fuji Airways Guide 2000年10月号に掲載した記事ですが、イラク・シリア・ヨルダン等、中近東が騒々しくなり一般人として行き来が困難になった今、40年前の行為を反省しつつご紹介する次第です。

#### 計画

私はイラン革命前の良い時期にイラン国テヘランに在住した。イランでは正月（ノールーズ）を3回迎えるがその最後の正月に、自動車でイラン・イラク・クウェート3国6千軒を走る自動車旅行を実行した。この旅の計画ルートはテヘランを出発してイラン・イラク国境を通過してバクダッドへ行き、そこを基点に北部の遺跡と南西のユーフラテス川沿いのメソポタミアを見学する。更にチグリス川を南下してバスラからクウェートを往復してイランのアバダン・イスファハンを経由してテヘランに帰るといったもの。

手続きはイラン当局と各国大使館に人間のビザと車のビザを別々に手続きした。車の仕様項目が記入された通過国数と回数分を束ねた通関帳が交付された。これを貰ってから車のナンバープレートに国際ナンバープレートに付替えに行った。車には非常食若干を積んで女房と6歳の娘を乗せて勇躍と出発した。

#### イラン・イラク国境通過まで

この年は60年ぶりと言う長雨にたたられた。イラン出国の手前山岳国境の町で最初の難関が待っていた。幅20m程の小川の水が溢れ流れて急流となり車が通過できないのだ。百軒近くの車が両岸で水の

引くのを待っている。結局2泊3日ここに滞在した。

## 初めて通過する国境

国境とはどんな所か。イラン側の小さな国境ホスラビは小奇麗な町だった。国境の門は頑丈なコンクリート壁と鉄格子で出来ている。その門の中側に遮断機が有って1台ずつ書類のチェックをして通過する。中に広い駐車場が有り誘導されて駐車する。通関の順序は、人間のイエローカードチェックと出国通関、車の通関、車の荷物の徹底的検査、警官の尋問、通行押印票と引き換えで遮断機による1台ずつの通過順となる。約2時間くらい経ったろうか、やっと終わった思いで機関銃の高楼の前を通過できた。後ろを振り返って見ると国境と言う所は道路の1点に存在し、その1点の左右500メートルに塀が有るだけだ。他には仕切りらしきものはない。何処が国境だか判らない。

通過した自動車道は砂道でガタガタだ。やれやれと思ったのが間違いで約2軒位行ったら今度はイラク側の通関所だ。がっかりした。人間と車の通関書類を提出して待っていたが一向に進まない。イラク側にはトラックが約50台待っている。催促に行っても通関職員と話をしている私は何番目かと聞いたら50番目位だった。日が暮れてしまうと途方にくれた。ところで君は煙草を吸うかと聞いたら吸うと言う。車に戻ってウinston3箱持ってきてドウゾと言ったら何と順番が次の番になってしまった。煙草の威力は絶大である。なんと何の検査もされないで無事通過できた。感謝と驚き。

## 憧れのメソポタミア

世界文明の四大発祥地の一つメソポタミア遺跡は駐車場から少し小高い所に有る。入り口で入場券を買う。早速職員が出てきて私が案内しますと言う。チップ目当てだとすぐ判ったが頼むことにした。今日の昼ころ雷雨が有って遺跡の見学道は水溜まりやぬかるみが出来ていて歩きにくい。約1時間くらいだろうかと大体一回りした。この遺跡の構造は全部煉瓦で出来ている。その煉瓦を接着しているのはタールでした。この地は昔から石油が滲み出ているのだと思う。途中でみる建物の煉瓦外壁の雄大な壁画は一個一個の模様を付けて焼いた煉瓦を積み重ねたものだがそれがとても印象的だった。(写真左下)



バビロンの壁画

その後記念博物館を見学した。あいにく雷雨のあと停電が続いていて内部は真っ暗だった。案内人が燭台を持って一生懸命説明してくれるが良く判らない。展示物の全体が見えないから無理だ。閉館の時間も来たので帰ることにした。

憧れて来たバビロンをもう一度見様かと思ったが日程の関係から断念した。旅先では、時に「また来る時も有る」と脳裏に閃くが、「二度と来る事はない」と思って旅行ではその一瞬を有効に使おうとする心掛けが大切な事だと思う。

## バクダッドからバスラへの道

トルコを源流とするチグリス川とトルコ・シリアを源流とするユーフラテス川の合流点は昔アダムとイブが住んだ所と言う。雄大でゆったりとした流れで桃源郷と呼ばれるに値する。この風光明媚な地にイラク国営のレストハウスがある。

国道はこの雄大な流れの川の堤防の上を走る。堤防の上から川の水位をみると、どう見ても川の水の方が高いと感じる。平原には羊牛馬と一緒に草を食べている。この辺はイランとイラクの国境が最も接近している所である。何百台と言う戦車が屯する国道を縫って走った。検問もかなり受けた。今にして思うのだがイランもアメリカも若し堤防を破壊すれば、大洪水となるであろう150kmにわたるこの堤防を爆撃しなかった。

## バスラの渡し船

バスラの対岸イラン側は人間の行き来が少ない。今晚はイランで泊まれると思ったがこの大河を渡るのに苦労した。渡しの船はボート2双の上に飛行機の翼を2枚載せた形をしている。即ち自動車4台を両端に載せて真ん中に人間を載せる。自動車が1台足りないのだ。暗くなったら終わりだと言うので焦ったがどうすることも出来ない。渡しの事務所に前のお前のパトカーを載せて動かせと交渉したが駄目だった。この大河には合流してから橋は1本も無い。日本政府はこんな所に架橋してやれば喜ばれるのにと考えてひたすら相棒の1台を待った。薄暗くなる頃1台が来て何とか渡れた。



バスラの渡し

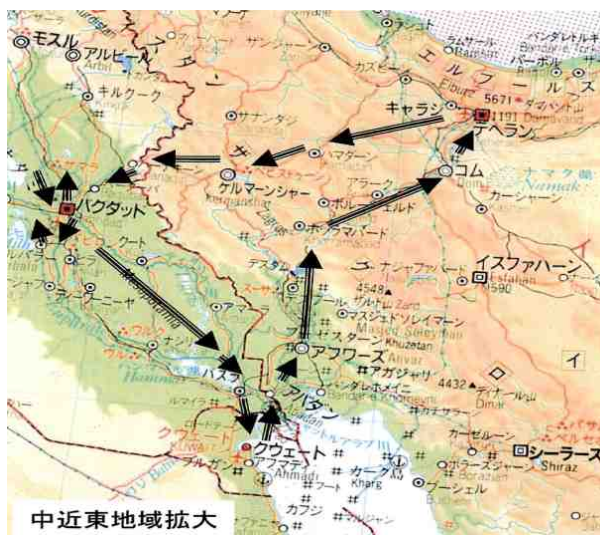
## バスラからイランへ

ようやく渡った大河の向こう岸の土地は泥んこのデコボコ道だった。3~4 軒走ってやっとイラク国境に着いた。懐かしのイランに入国、テヘランまではまだ千軒以上ある。

## 追記 (2015年2月7日)

### 旅行の目的

- ① 国境を車で通過体験したい。
- ② バビロン遺跡の見学 (私は昭和20年4月に旧制中学に入学しました。西洋史の故大野先生は1年間バビロン文明の話ばかりしていました。それから何時かは訪れてみたいと思っていました。チャンス到来と思いました)
- ③ 中東の地を車で走ってみたい。  
(約6,000km 12泊13日予定)



## 思い出メモ

- ・出発する前にガソリン補給地を相当調べた。
- ・旅券は人間と車は別物であると言うことが手続きして良くわかった。(車の売却を防止するため、車の諸元を記入した通過国境の出入り通過証が行程表の通過回数分発行される)
- ・ホテルの予約は一切しなかった。着いた所での交渉で宿泊した。
- ・テヘラン出発後、ザクロス山脈にて60年振りと言う大雨に見舞われ、イラン出国手前の山岳地帯で幅20m位の小川の橋が降雨のため冠水して渡れず2泊3日動けず損をして、行程を短縮する目にあつた。増水がいつ引くのか眺めている群衆に日本人が居た。声をかけたらこんな所に日本人が来るのも珍しいと言われた。水が引くまで我が家に泊れと言うことになり、天の助けと感じた。繊維メーカー派遣の社員で羊毛を集めているらしい。お2人でした。今も健在で御挨拶をさせていただいている。「イランは遠くなりにはけり」の挨拶を受けている。
- ・イラクの地方都市で東京銀行のトラベラーズ券でドルから換金しようとしたが、何処の国の金券か判別できず換金が難しかった。米銀行トラベラーズ券を持っていて助かった。ドル現金が一番良いが危

険もある。

・バビロン遺跡の整備は良くない印象を受けた。頭巾をかぶった兵隊が骨董品を売りに来る。偽物に要注意だ。

・チグリス、ユーフラテス川の合流地は桃源郷と呼ばれるに相応しい素晴らしい地だ。説明書にアダムとイブが住んだ所と書いてあった、真偽は判らない。ここに2階建ての国営ホテルがある。イラク国内で一番良い宿だった。上等の部屋を取ったつもりだが、ベッドに猫が寝ていた。他の客はいなかった。

・イラク国内では随所に検問所があり、相当な回数検問された。戦車や機関銃装備の軍用車が多数あった。兵隊は殆ど英語が通じなかった。待たされて特殊兵が来て、人間と車のパスポート、車内荷物点検検査を受けて通過が出来た。

・バスラを通過してイランの国境通過は兵隊のみで待たされた。あまり長いので検問所の敷地を歩いて所長を探した。通関所長自ら窯でパン(ナン)焼きをしていて待たされた。焼けたらパンを呉れて食えと言う。付き合うのも大変だった。

・クエイトで植田肇 ITU 専門家のお世話になった。ITU 旅券の方が日本政府の公用旅券より権限が強い。NTT クエイト事務所を訪問した。新井所長も財務整理のめどが見ついたと話されていた。

・クエイトを出国するとき街のスーパーでラーメン1ケース買った。これが問題となった。検査官の車内点検の時、初期対応に油断もあった。所長室まで連れて行かれ「本品は我が国が必要として輸入した品物だ。買った所へ返して来い」のドウドウ巡りとなり通関時間が掛り困惑した。

・今は行けない40年前の思い出として無事に旅行できたことに感謝する気持ちだ。

## ◆ 第14 海外情報談話会開催模様

事務局



標記談話会は去る3月13日(金)、JTEC 会議室において開催され、30名の参加がありました。

講師は富士通株式会社 エクゼクティブフェロー 雄川一彦氏で、演題は「富士通の情報通信関連新技術と海外展開について」でした。講演の内容は以下のようでした。

情報通信技術の進展に伴い、あらゆるものがつながっていく新たな世界が出現しつつあります。そこでは、人間が様々な ICT テクノロジーと情報を自由に使いこなすことができるようになり、その結果、人間の創造力が新たな価値や社会モデルを生み出すようになるでしょう。富士通は、このような社会を「Human Centric Intelligent Society」と名付け、その実現に向けて様々な活動を行っています。

本講演では、上述のような取組みとともに、特にネットワークインフラに焦点を当て、その最新技術と海外展開について紹介がありました。具体的には

①「未来を拓く ICT」として、様々な社会問題の解決に向けた取組み、未来に向けたインフラストラクチャーの実現等

②「ネットワーク技術開発の動向」として、次世代ネットワークビジョン、5G時代のモバイルソリューション、仮想化技術によるネットワーク運用等



③「ネットワークビジネスの海外展開状況」であり、ネットワークの現在の課題から今後の展開まで本質をついた講話でした。この講話について、石井孝氏より FaceBook を通して「雄川氏は、NTT 時代から頭の切れることにかけては、他の追従を許さなかったが、今日の話も極めてシャープであった。色々興味深いテーマのオンパレードであったが、特に、IoT 時代におけるネットワークインフラの在り方に関する問題提起には、久しぶりに強烈な刺激を受けた」とのコメントを広く発信しておられます。



### ◆ 第 15 海外情報懇談会開催のお知らせ

主催 ICT 海外ボランティア会

協賛 情報通信国際交流会

第 15 回海外情報懇談会を以下により開催いたします。ご参加をお待ちいたしております。

日 時：平成 27 年 4 月 17 日（金） 午後 3 時～5 時

会 場：JTEC（海外通信・放送コンサルティング協力）

（五反田駅下車徒歩 5 分、道順は同協力のホームページをご覧ください）

今回の会場は、情報通信エンジニアリング協会ではありません。

話 題：「MOOCs（Massive Open Online Courses：大規模公開オンライン講座）

－世界の動向と展望－

講 師：東京大学 名誉教授 吉田 真氏

概 要：近年の ICT の進展、特にインターネット、オープンソフトウェア技術等に支えられて、教育への ICT 利用とオープン化が、オフラインの CAI からオンラインの遠隔教育へ、さらに広く多様な e-learning の形で進展している。

特に、ここ 2-3 年での世界における MOOCs（Massive Open Online Courses）の急速な進展は目まぐるしく、その将来についても今だに混沌としている。

本講演では、教育のオープン化の流れ、特に OER（Open Educational Resources）、OCW（Open Course Ware）、MOOCs の進展の背景から、世界の現状、日本の JMOOC（日本オープンオンライン推進協議会）の取り組みを紹介し、今後の課題を展望する。

参 加： **入場無料** お気軽にどうぞ！（会員制ではありません）

参加ご希望の方は、事務局 加藤隆 [info@ictov.jp](mailto:info@ictov.jp) までご一報下さい。

## 会報お読みの方々へのお願い

本会の拡充と共に、会報の充実も計ろうといたしております。

それで会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず、本会運営に当たっても大きな方向付けに役立ちます。どうぞ遠慮なくお送りいただきますようお願い申し上げます。

送付先は、編集担当 加藤 隆([kato2415@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:kato2415@jasmine.ocn.ne.jp)) , または

村上勝臣([katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp](mailto:katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp))までお寄せ下さい。

### 編集後記

・ 今年も JICA シニア海外ボランティア (SV) の春募集が4月1日より始まります。私は去る3月21日、その初回の JICA 市ヶ谷で開催された募集説明会と同時に開始された「SV 経験を活かす会」による「よろず相談会」に相談員として参加しました。募集説明会は、SV と青年海外ボランティア募集の合同でした。土曜の午前ではありましたが、会場がほぼ満杯になるほど参加者が多く熱気を感じました。それで私達に個別相談に来られた方も多く、退職後の生き方として、是非とも SV をやりたいとの意気込みを感じました。その多くの方はご自分の経歴が活かせるボランティアの職種は何だろうかとの不安があるようでした。私は私の経験から、幾分なりともご自分の経歴に関連する職種にチャレンジする事をお奨めしました。私も一瞬、もう一度 SV をやって見たい衝動にかられましたが、これは年齢制限ではかない夢でした。

・ 杉浦さんの「バビロンへの道」は、なかなか予定通りには行かない生々しい当時の様子がよくわかる旅行記で楽しく読ませていただきました。今となっては貴重な記録です。

(以上 加藤)

・ 石井さんの「真藤語録」は分社化に焦点をあてた話題の続きでした。右顧左眄という言葉初めて目にしました。当時の頃の自分の行動を回想し反省しきりです。

・ 田上さんの「The world end」の奇跡ニュースは私事、ウェブ (海外こぼれ話) で読みました。さすが、あのお話を自分の経験に焦点を合わせて仕上げた1文、感心いたしました。

・ ICR (情報通信研究所) 副主任研究員、佐藤仁さんからインドの携帯電話市場の話題を寄稿していただきました。2回に亘り掲載します。アジア諸国で、スマホが普及するには価格がキーポイントのようです。電友会 (NTT OB の会) 関東 HP に桑原名誉顧問が「群雄割拠する格安スマホ市場」 (2014. 12. 19) を紹介していました。イオン、楽天、日本郵便も参入するようです。日本国内の動きも気になるところです。

(以上 村上)

総編集長 : ICT 海外ボランティア会 事務局長 加藤 隆

編集長 : ICT 海外ボランティア会 報道部長 村上勝臣

発行 : ICT 海外ボランティア会 (メール : [info@ictov.jp](mailto:info@ictov.jp))